

モンゴル国小学校における音楽の授業

石井 哲夫

Music Classes of Elementary School in Mongolia

Tetsuo ISHII

E-mail: tishii@edu.u-yoyama.ac.jp

Abstract

These examples are music classes of Elementary School of Zoonmod and Voranol in Mongolia. The elements of national music are adopted in these classes. Instruments what are used in these class are made from useless articles in some case. We ought to learn from them in Musical education in Japan.

キーワード：モンゴル, 小学校, 音楽, 民族音楽

keywords : Mongolia, elementary school, music class, national music

I. はじめに

モンゴル国は中央アジアに位置する面積約156万平方kmの国家である。主要な言語はモンゴル語であり、日本語との類似点が多いとされる。また以前よりモンゴルの代表的な民族音楽オルティンドー（長唄）と日本の長唄との類似点や、両国の間の民謡にみられる音階の共通点も指摘されている^(*)。そこで、これらの事実からモンゴルの小学校における音楽の授業の中に、日本の音楽教育の中に採り入れられるような内容・方法はないものだろうか、と考え、今回の調査行に至った。

尚、今回の調査で赴いた地域は首都ウランバートルの南約30kmのところにあるズンモドと、北方約50kmのボラノールである(図1)。どちらも首都ウ

ランバートルを含むトブ県（中央県）の町であるが、ズンモドはトブ県の県庁所在地であり、ボラノールは郊外の村である。2つの地域の自然、生活習慣等はかなり異なる。

訪問・調査の協力が得られたのはズンモド1校、ボラノール1校である。^(**)

II. 民族的素材を採り入れた音楽の授業の様子

ズンモド町の小学校、3年生の授業の様子。黒板に貼られているモンゴルの民族衣装の絵から子供たちにモンゴル各地の民族の生活を感じとらせ、馬頭琴^(***)の演奏による簡単な民族舞踊で表現してみるというものであった。(図2・図3)

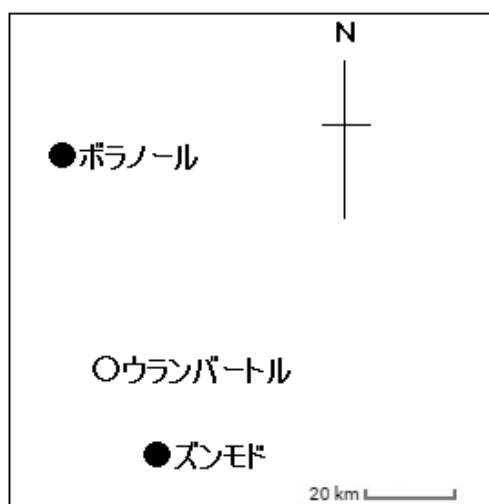


図1. ウランバートル, ズンモド, ボラノールの位置 (左: 著者による作図, 右: Google Map を引用)



図2. モンゴルの民族衣装の絵が貼られている黒板 (ズンモド)



図3. 民族舞踊の練習中 (ズンモド)

Ⅲ. 廃物から作った楽器を使っでの授業の様子

小学校5年生の授業。子供たちが手にしているのは、使用済み割り箸を使った教諭手作りの楽器である(図4)。この日の授業内容は西洋音楽の音階の基礎だったが、この楽器で遊ぶ感覚で音の高低とDo, Re, Mi・・・のイタリア式音名を覚えてゆくものだった。



図4. 使用済み割り箸で作った楽器を使っでの授業の様子 (ズンモド)

破損して使用不能となったCDで作った教具。裏は少し不機嫌な顔が描かれている(図5)。長い間、中国・ロシアの支配下にあったこの国では、人々の話す言葉もモンゴル語、中国語、ロシア語、カザフ語、と様々である。現在モンゴルではバヤン・ウルギー県など一部地域を除き学校教育はモンゴル語で行なうものとされているが、子供たちの中には両親の話す言葉がこれとは異なるため、モンゴル語に馴染めない子もいる。その対策のためと思われるが、授業中に教師が発する言葉の補助として使うそうである。



図5. 廃品を再利用した教師手作りの教具 (ズンモド)

Ⅳ. 言葉と音楽の関連を感じとらせる授業の様子

ボラノールの小学校での授業の様子である(図6)。ズンモド町の小学校に比べると、音楽の授業のための設備・教具が完備していない(電子ピアノが設置されている教室すらない)。音楽の授業も一般教室で行われる。



図6. 言葉を発し言葉のアクセントに合わせて手拍子を打つ授業の様子 (ボラノール)

V. 調査結果からの考察

1) 上にあげた2つの学校のある地域の違いによるもの

前述のようにズンモドはトブ県の県庁所在地であり、首都ウランバートルからの通勤者がいるほどの環境であることから、音楽の授業を行なうための施設・設備も比較的整備されている。一方、ボラノールの小学校には「音楽の授業のための教室」はなく、授業は一般教室で行なわれるため、子供たちの歌の伴奏のための楽器すらない中での音楽の授業となる。いきおい、授業の内容等にはかなりの差が出てしまう。

2) 民族音楽的素材

どちらの学校の音楽の授業も、(母国語である)モンゴル語の習得、民族の生活とその中で培われた音楽を取り入れた授業となっている。

このような考え方は、日本の音楽教育においても「わが国の伝統的歌唱」を取り扱う際、日本語の発音・アクセントとリズム・旋律等との関係を感じ取らせる、表現・鑑賞の活動を通して日本人の生活習慣と音楽の内容との関連を考えさせるなどの面で採り入れることが可能と思われる。

VI. 本調査研究の今後の発展

モンゴルの民族音楽と日本のそれとの間の共通点を探求し、モンゴルにおいて民族音楽が教材化されているプロセスをさらに調査する。その結果から、日本の小学校の音楽の授業において日本の伝統的音楽を採択する新しい方法について考案してゆく予定である。

VII. 謝辞

本調査においては、モンゴル国トブ県の芸術・スポーツ外国人担当官のバトトコフ氏、ズンモド町小学校のエクチャラカフ教諭、アオチャリヒ教諭、トブ県舞台芸術監督でモリンオール奏者エルデンバートル氏に全面的な協力をいただいた。ここに記して感謝する次第である。

(注)

*1) 横田知子著／小島美子監修 はじめての馬頭琴～音の遊牧の世界(音楽の友社)

*2) ズンモド町では9年生(日本の中学校3年に

相当)の音楽の授業も参観したが、本研究の主題からは外れるので、本文では言及しない。

*3) 馬頭琴 モンゴルの代表的な民族楽器でモンゴル語ではモリンホール(馬の楽器)という。モンゴル国の他、中国の内モンゴル自治区でも見ることができる。両者の楽器の間には構造・調弦法等に若干の違いがみられる。

(2014年10月20日受付)

(2014年12月10日受理)